

「大震災」に伴う第82回メーデーの対応について

第82回メーデー実行委員会
常任実行委員会

第82回メーデーの位置づけについての補強

第82回メーデーは、3月11日、三陸沖を震源地とするマグニチュード9.0という観測史上最大となった「東日本大震災」後、はじめての全国的規模による大衆集会となる。今回の大震災は、3週間後立った今も死者、行方不明者約28,000人、18万人もの被災者が避難生活を余儀なくされている戦後未曾有の大災害である。

また今回の大震災は、国・自治体の防災行政のあり方など国家的危機管理問題や「原発安全神話」の崩壊や情報公開、原発依存のエネルギー政策の見直しが浮き彫りになった。また今回の大震災に伴う被災地外での「計画停電」は、生産活動や交通機関に大きな影響を与え、労働者・国民の日常生活さえも脅かす結果となった。

こうした点をふまえ、第82回メーデーは、「被災者救援と被災地の復興支援」を前面に掲げ、戦後最大の国難を乗り越えるため、全国的支援を大きく呼びかけていく場として開催する。また膨大な内部留保を溜め込んでいる大企業に対し、「溜め込み利益を復興支援にまわせ」の世論喚起をはかっていく。同時に、2011年春闘の後半戦にむけた重要な決起の場であり、「4つの位置づけ」についても堅持し、整然と開催していく。

以上